

理工学部

スマイルマッププロジェクト2014

担当学部等 理工学府

担当学科等 知能機械創製部門

担当者 船津 賢人 准教授・天谷 賢児 教授

◎事業概要

近隣地域社会(主に桐生キャンパス周辺の飲食店や小中高校など)の情報収集を行い、その情報を大学人(教職員・学生)に展開し、相互に活用してもらう社会実験(群馬大学理工学部周辺ランチマップ(店主の笑顔写真付き)、すなわちスマイルマップ製作)を行う。これより「大学の敷居の高さ」をできるだけ払拭してもらい、群馬大学が地域に根ざしたシンクタンク(地(知)の拠点)としての機能を持つことを理解してもらおう。[中期目標・中期計画の「地域の知の拠点として、学内外関係機関との連携した活動を通じて文化を育み、豊かな地域社会を創るために活動する」]に対応する。]

具体的には、群馬大学理工学部周辺の笑顔ランチマップ(スマイルマップ)の製作(理工学部周辺のランチ情報の収集を行い、それをまとめ、大学人に展開する)を実施し、学生そして教職員のもつ「群馬大イズム」を発信する。

◎実施事業等

近隣地域社会の情報収集は参加スタッフ(大学院生3名、学部生1名、教員1名)の脚と汎用の情報収集ツール(Twitterなど)を活用し、スマイルマップ2014を製作する。スマイルマップ製作では、群馬大学理工学部周辺の飲食店をたずね、Twitterを利用して、ハッシュタグ(#) #tabetan #kiryuをつけ、同時に写真をアップロードした。それらの情報をもとに、一枚の【群馬大学理工学部周辺笑顔(スマイル)ランチマップ】として製作し(桐生森芳工場の赤池孝彦氏(東京藝術大学非常勤講師)の協力)、群馬大学内外で配布、また、群馬大学のホームページ(http://www.gunma-u.ac.jp/html/campusmap_2.htmlの地図の下にある「(参考)ランチマップ(桐生キャンパス)」を参照のこと)等で自由に閲覧できるようにした。

◎期待される成果

近隣地域社会と大学人との見えない敷居をできる限り取り除くことを目標とし、積極的に「群馬大ブランド」を発信する目的で、スマイルマップ製作を実施した。

期待される成果としては次の点が挙げられる。(1)近隣地域社会に大学人が、積極的に参加することによって、「群馬大学」が地域に根ざした大学であることをアピールする良い機会となり、このような活動の重要性を認識することができた。(2)国立大学法人群馬大学の知名度は高く、群馬大学が「存在する意義や意味」を改めて考えさせられる良い機会であった。

また、近隣地域社会の情報収集・大学人(教職員・学生)への展開・相互活用という短期間の社会実験を行い、笑顔とともに地域に根ざした活動を行っている「群馬大」というブランドを発信していくことが部分的ではあったが、実施できた。